

分野	自己評価結果と学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策
教育目標 ・ 学校経営	・学校教育目標の達成を念頭にいれ、職員の共通理解のもと教育活動を行う。 ・校務分掌相互の連携・調整をさらに行い、円滑な学校運営を行う。 ・学校行事等、教育活動をホームページや学校便り等を通じて、発信する。
研究	・教育活動で学校教育目標と重ねて、研究主題の周知徹底を継続する。 ・職員の業務改善による研究・研修の時間を確保し、研究テーマに関する研修やワークショップを定期的に開催し、全体の理解を深める。 ・ICTを活用した個別最適な学びや主体的な学びを目指す授業研究を行う。
学習活動	・言語活動の充実や ICT 機器を効果的に活用し、個別最適な授業を行う。 ・グループワークやディスカッションを活用し、授業への積極的な参加を促進する。 ・総合的な学習の時間や道徳において、生徒が主体的に学習できるよう、各学年主任や他の分掌と連携し、3年間の見通しをもって計画を行う。
生徒指導	・コミュニケーションを強化し、信頼関係を築く。 ・週1回の生活部会や月1回の生活アンケート、年3回の教育相談の充実を図ることで、生徒の状況を正確に把握し、いじめ防止等に努める。 ・学習に集中できる環境を整え、自分で考えて行動できる自己調整能力を育てる。
特別活動	・学校行事への積極的な参加を促進するため、より魅力的な企画を考える。 ・生徒自らが活躍できる場面を設定し、生徒の主体性とリーダー育成に努める。 ・学級活動において、個々の役割を明確にし、集団の中の一員としての自覚と責任を育てる。
道徳・人権	・学年の実態をふまえた授業を計画し、生徒の多様な価値観を尊重した授業を行う。 ・実生活に即した道徳的課題や新しい授業展開例を取り入れることでアイデアを共有する。 ・人権集会や人権作文等の道徳指導を充実させる。
進路	・各学年において見通しをもった進路に対する意識を持たせる。 ・進路説明会の内容を充実させ、進路決定までの資料や情報提供をする。 ・総合的な学習の時間の中で職業や勤労観に触れ、キャリア教育を充実させる。
特別支援教育	・支援が必要な生徒への個別の支援計画の充実を図り、生徒支援に生かす。 ・特別支援学級と普通学級との交流をさらに充実させる。 ・特別支援コーディネーターを中心に教員間で情報共有し、サポート体制を整備する。
教育環境整備	・安全点検日等で修繕が必要なものについては、関係部署と連携して整備を行う。 ・機器・教材の整備を計画的に実施する。 ・安全で清潔な学校環境の維持強化を行う。